第 389 回

日 本 泌 尿 器 科 学 会 新 潟 地 方 会

《 プログラム・抄録 》

日　時：平成 31 年 3 月 9 日（土）午後 2 時 30 分
会　場：ホテルオークラ新潟　4 階　『コンチネンタルルーム』
新潟市中央区川端町 6-53　025-224-6111

次回　第 390 回新潟地方会（三大学合同地方会）予告
日時：2019 年 6 月 8 日（土）
会場：未定（新潟市）
演題申込期限：未定

※　すべて PC のみの発表とさせていただきます。
※　口演時間は、7 分。討論 3 分（時間厳守）

951-8510　新潟市中央区旭町通 1 の 757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784
会長　冨田　善彦

14：30〜15：10　　**座長　武田　啓介**

1.　膀胱褐色細胞腫の１例

新潟大学医歯学総合病院　泌尿器科
松本華奈、星野さや香、安楽力、田﨑正行、齋藤和英、冨田善彦

症例は 89 歳女性。肉眼的血尿を主訴に当院を受診した。膀胱鏡では粘膜下腫瘍が疑われ、MRI では膀胱褐色細胞腫の可能性が指摘された。しかし、高血圧や排尿時発作など、本疾患を疑う症状に乏しかったため、α 遮断薬を内服させるなどの術前処置をせずに、経尿道的膀胱腫瘍切除術を施行した。手術開始直後から胸部不快感や急激な血圧上昇を認め、膀胱褐色細胞腫の診断に至った。膀胱褐色細胞腫は非常に稀な疾患であり、膀胱腫瘍全体の約 0.06%とされている。今回、肉眼的血尿のみで、その他に有意な症状を認めなかった膀胱褐色細胞腫の１例を経験したので報告する。

2.　当院におけるアミノレブリン酸を用いた光学診断補助下 TUR-BT の初期使用経験

新潟大学医歯学総合病院　泌尿器科
池田多朗、黒木大生、風間明、鳥羽智貴、石崎文雄、丸山亮、笠原隆、原昇、冨田善彦

アミノレブリン酸塩酸塩(アラグリオ®)は TUR-BT の際に筋層非浸潤膀胱癌を可視化し、その識別性を向上する薬剤であり、腫瘍の再発や進展の抑制が期待されている。当院でも 2018 年 11 月より採用し、これまでに 13 例に使用した。内訳は男性 11 人、女性 2 人、年齢中央値 70 歳、Ta 4 人、Tis 2 人、T1 1 人、T2 1 人、悪性所見なし 5 人であった。経験症例のうち、有用であった症例の手術ビデオを供覧し、若干の文献的考察を加え報告する。

3.　Osteosarcoma の組織像を呈した Urothelial carcinoma, sarcomatoid variant の 1 例

新潟大学地域医療教育センター　魚沼基幹病院　泌尿器科[1)]、病理診断科[2)]、放射線診断科[3)]
村田雅樹[1)]、乾幸平[1)]、中川由紀[1)]、西山勉[1)]、長谷川剛[2)]、池田洋平[3)]

６７歳男性が血尿を主訴に２０１７年７月に当科受診した。膀胱左側壁に粘膜塑像な病変を認め、TUR-BT を行った。尿路上皮癌、G2, high grade であった。３か月後、左側壁に乳頭状広基性腫瘍を認めた。画像上明らかな筋層浸潤を認めなかった。左側壁の乳頭状広基性腫瘍および左尿管口近傍の非乳頭状腫瘍をそれぞれ TURBO で切除した。前者は、Non-invasive UC, G2, high grade。後者は、Invasive UC, sarcomatous/osteosarcoma variant で、血管侵襲を伴なっていた。２０１８年３月に膀胱全摘除術、代用膀胱造設術を行った。膀胱壁に伸展した osteosarcoma を認めた。その後、肺転移があり、化学療法後、肺部分切除を行った。

4.　ウィルス性腸炎後の両側尿管結石により急性腎後性腎不全を発症した１例

新潟大学医歯学総合病院　泌尿器科[1)]、小児科[2)]
中山亮[1)]、小原健司[1)]、風間明[1)]、丸山亮[1)]、星井達彦[1)]、金子昌弘[2)]、長谷川博也[2)]、山田剛史[2)]、冨田善彦[1)]

症例は１歳８か月の男児。当院に来院する８日前に胃腸炎症状で前医を受診した。補液にて帰宅するも、来院３日前より活気の低下を認め、前医に入院した[Cre 1.2mg/dL]。その後も補液加療を受けたが乏尿が持続していた。来院前日の腹部骨盤部 CT 検査で両側尿管結石を認めたが、腎盂の拡張が軽度であったため腎前性や腎性腎不全が疑われていた。来院当日、さらに腎機能の悪化を認めたため、当院小児科に転院となった[Cre 3.7mg/dL]。同日、泌尿器科的処置の必要性についてコンサルトを受け両側尿管ステント留置を予定したが、待機中に尿量の増加を認めたため、尿のアルカリ化を目的として、クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウムの内服を開始した。その後、自然排石し、腎機能の改善を認めた。小児の急性胃腸炎後に両側尿管結石を生じ、腎後性腎不全を発症した報告も散見される。文献的考察を加えて報告する。

15：10〜15：40　　**座長　石崎　文雄**

5.　当院における Pembrolizumab の使用経験

長岡中央綜合病院　泌尿器科
晝間楓、信下智広、高橋英祐、照沼正博

当院では 2019 年 2 月現在、プラチナ製剤使用後の尿路上皮癌 8 症例に対して Pembrolizmab を使用した。8 症例のうち、膀胱癌が 2 例、腎盂癌が 1 例、尿管癌が 5 例であった。治療効果については、無効が 3 例、有効もしくは継続中が 2 例、有効性を認めたものの副作用で中止となったものが 3 例であった。副作用は、間質性肺炎、筋炎、副腎不全がそれぞれ 1 例であった。特に、副作用を認めた 3 例について詳細を報告する。

6.　BCG 膀胱内注入療法にともなう Reiter 症候群症例の検討

長岡赤十字病院　泌尿器科
山﨑裕幸、鈴木一也、米山健志

尿路上皮癌に対する BCG 膀胱内注入療法の副作用の一つとして、結膜炎や関節炎を合併する Reiter 症候群が報告されている。2011 年 4 月から 2018 年 10 月までに当院で BCG 膀注療法を施行した 89 例のうち 5 例（5.6%）に Reiter 症候群を認めた。
男 4 例、女 1 例、年齢中央値は 67 歳、平均投与回数は 6.4 回、最終投与から発症までの中央値は 5 日、3 例で眼症状が先行した。治療は 4 例で NSAIDs 内服、1 例は点眼薬のみであり ステロイド使用例はなかった。BCG 膀注症例全体についても併せて解析、検討を行った。

7.　対処に苦慮した妊娠水腎症の 1 例

済生会新潟第二病院
車田茂徳　吉水敦

妊娠水腎症は妊娠子宮の圧迫や、ホルモン環境の変化により、妊娠中期以降には比較的高頻度に遭遇する所見である。痛みの対処として、ステント留置などを必要とする例は稀で、また、これらの処置で疼痛コントロールは容易とされている。今回、ステント留置後も、頻回に鎮痛剤を必要とし、対応に苦慮した妊娠水腎症を経験したので、治療方針選択の是々非々や実際の処置を行う上での留意点などについて、若干の文献的考察を加えて報告する。

《休憩　15：40〜16：00》

日本泌尿器科学会新潟地方会総会
16：00〜16：30

地方会終了後研究会が予定されています。